

研修で
学校が
変わる

外国語教育小中連携研修 まとめ

「外国語活動・外国語科の授業の在り方」

Web会議による遠隔講義 令和2年11月5日(木)



【研修のねらい】

- 小中9か年を見通した外国語教育の在り方について理解し、小中連携して外国語教育を推進する実践力の向上を図る。

講師 直山 木綿子 氏 (文部科学省 視学官)

小中連携

小中連携を進めるポイントの六つ(環境、目標、学習内容、指導法、教材、学習評価)のうち、教師の自由度が非常に高い**指導法の継続**が大切である。

指導法の継続のためには小中の目標の共通点である「**言語活動を通して**」という部分に着目する。

外国語や外国語科における言語活動とは、**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあう活動**

○小学校教員から中学校英語教員に伝えること・・・**言語材料、活動、教材 を必ずセットで!**

※言語材料だけを伝えても何にもならない。

○中学校英語教員・・・読むこと、書くことのギャップを指導法で埋める。

文法事項の有用性を生徒に実感させる。

【私はこの学びをこう活かす!】

私はこうしたい! 受講内容からMyアイデアへ

校内OJTで実現へ!
PDCAサイクルに乗せて
学校力アップにつなげる

《小学校》

- 小中学校連携として、まず中学校の英語担当の先生に小学校6年生の授業を参観していただくように研修後話し合った。内容として、言語材料と教材と学習の進め方の様子を中心に参観していただく予定を立てた。
- 今後、小学校教員が中学校で、中学校教員が小学校で交流授業ができればと考えている。
- 新学習指導要領が来年度から中学校で始まることを受けて何がどう変わるのかしっかり理解した上で、日々の小学校での授業を見つめなおしていきたい。
- 中学校の英語で語句・文法事項が増え、英語での授業を基本とすることを知った。本校の先生方にこのことを周知し、小学校で力をつけた状態で中学校へバトンを渡せるように取り組んでいきたい。
また、言葉は使いながら使えるようになる、ということを私自身も実感しているので、英語を積極的に使っていくことを実践していきたい。
- 職員に研修内容を伝え、小中連携についての意識を高める。中学校の英語の授業を参観する機会を設けるよう働きかけるなどの行動に移す。

《中学校》

- 来年度より実施の学習指導要領について、校内で何度か教科会を開く予定です。その中で、小学校の学習内容についてしっかり伝えたい。
- 小中連携をどのように進めていけばよいか参考になった。また、中学校の英語授業の改善を英語科教員とともに取り組みたい。
- 校区合同研修で取り上げて進めていきたい。

《義務教育学校》

- 義務教育学校のため、小中連携はとても取りやすい環境だが、「しっかり」というところまでには至っていない。「9年間を見通した小中連携したカリキュラム」作成に取りかかりたい。

